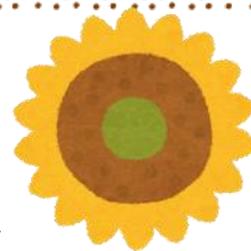


スクラム

令和2年 7月号



毎日、学級から元気いっぱいの声が響きわたっています。

学校が再開して1か月が経ちました。子供たちは、友達と会えなかった時間を埋めるように、休み時間に、声を掛け合って一緒に遊んでいました。学習の時間では、再開して間もない頃は、久しぶりの学校で緊張している様子でしたが、最近では進んで自分の考えを話す子が増えてきました。

この1か月間は、学校生活に慣れることに加え、学級のみんなで1つの目標に向かってできることを考えて活動してきました。畑での栽培活動や少しずつ動き出した会社活動等、子供達が自分たちで考えて、協力し合いながら成長していけるように、これからも支援していきたいと思ひます。



☆子どもの目から☆

4月にカブトムシの幼虫を子供たちに配ってから、子供たちから「カブトムシがさなぎになったよ」「ぼくのは、2匹ともメスだった。毎日ゼリーをたくさん食べているよ」とカブトムシを大切に育てている様子を教えてくださいました。

理科の学習で昆虫の成長を学習する単元に入り、Sさんが、家で飼っていたモンシロチョウのさなぎを学校に持ってきてくれました。

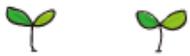
Dさん：プラス1で調べた通り、本当に糸で体を固定しているよ。

Aさん：落ちないように、観察しよう。

全 員：思ったより大きいね。



子供たちはみんな大興奮で、さなぎをいろいろな角度から観察し、確かめていました。子供たちが自分で考え、実感をもって学ぶことができる、実物を使った体験的な活動を今後もたくさん取り入れていきたいと思ひます。



☆自分で考えて、動いて☆



図工の時間に「びよびよくん」を作りました。完成した後に、びよびよくんをどうしたいか尋ねると子供たちから「びよびよくんを使って、全校のみんなと一緒に楽しみたい」という思いを聞くことができました。そこで、3年生がびよびよくんを隠して、全校のみんなに探してもらう「びよびよくんをさがせ！！」プロジェクトを立ち上げました。

プロジェクトを、いつするのか、どのように楽しんでもらうか、どんな方法で活動を全校のみんなに伝えるのか、みんなで何度も話し合いをしました。Sさんは全校にチラシを配って知らせようと考えました。Tさんはたくさん楽しんでもらいたいから活動する期間を長めにとればよいと考えました。Sさんは見付けた人にびよびよくんの手足に使った材料を生かして花メダルを作り、プレゼントすることを提案してくれました。

また、Mさんは仕事の分担を中心となって考え、友達に声をかけました。HさんとTさんは見やすさを考えながらちらしを作りました。IさんとDさんは放送を担当し、HさんとFさんは相手に伝わりやすい話し方を考え、各教室への連絡する文を作成しました。「隠した場所を見つけた人が、他の人に言う」という問題が活動中に浮かび上がりました。話し合いの中で、書いてきた人に確認し、シールを分けて貼ることで解決していきました。Aさんは、全校のみんなにお礼の気持ちを込めてプレゼントを渡したらどうかと提案しました。

このように、子供たち一人一人が自分のアイディアや持ち味を生かして一生懸命活動に取り組むことができました。子どもたちは、全校の仲間に参加してもらうという初めての経験を通して、教室だけで行う活動では分からない大変さや、やりがいを感じる事ができたと思います。振り返りでは、自分の頑張りや活動の楽しさに気付き、友達の頑張りを見付け合う姿が多く見られました。



☆お願い☆

3年生になって、学習する内容が増えました。そのため、子供たちはノートを書くことも増えて、毎日頑張って学習に臨んでいます。そこで、一度ご家庭で、筆箱のチェックをお願いします。削られた鉛筆の数、消しゴムの大きさ、ものさし、ネームペン等、学習に必要な物がしっかりと揃っているか確認をお願いします。

